

梧溪叢書

名所和歌

完

1842  
1843

(2)



名可和歌

(5)

丸

塩竈

丸粒将志村

月影の初まむさろ〜〜〜三つあふみの

煙にふちり浦のあまのむしや

丹陽丹陽丹治丹治

山あいの入目もさくてもうたよ乃

つち色ふきまめめつれ

大槻野 深谷権

とねの死うらのゆてやまきみ

雲の如き雲うらの如き雲うらの如き雲うら

長九川と 龍平勝之

晴より川氷と云ふにうらと云ふて

うらと云ふにうらと云ふにうらと云ふに

戸地指 日印 具

旅人のゆかり、その人のゆかりのゆかり

ゆかりのゆかりのゆかりのゆかり

元智甫 龍平勝之

雲の如き雲の如き雲の如き雲の如き雲

ゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり

壺碑 龍平勝之

ゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり

ゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり

龍平勝之 龍平勝之

ゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり

ゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり

玉川

源光長

月影さひかりとそくてきりまうらの  
こぼるうたはけふ十をきくまり

雜信

源光長

をさうれははくたつ侍のおきりも

ちの浦はとわよこにたてて

二本松

源光長

これとて人かたけいりくをよのめ

二本松とえぬきとくはのすまの

不忘山

源光長

昔のよにハきとくよひてあめそふ

おろく人をとすれすのせふ

源光長

源光長

あめつまの川海とくく清きよの

ゆたのあまのつま

源光長

源光長

うたふるふいとせんとてぬりしる  
なるそりのうたひのめけうらまへん

唐物

法華法橋釋典

月夜まゝのほそすうらまへん

おぬらま川のきよの記たけなうきこり

有難お同

法華法橋釋典

おん—そほその陸奥さうらまへん

—せんとてぬりしる

唐物

法華法橋釋典

うらまへの色さくぬくぬれまへん

うらまへのまにさうらまへん

福善寺

法華法橋釋典

うらまへの色さくぬくぬれまへん

うらまへの色さくぬくぬれまへん

右

面和久福田村同福善寺

打面のわたりしる

のらるるやりのあもるくのみさ

あまやま

徳和年々  
あまやま

あまやまのあまやまのあまやま

あまやまのあまやまのあまやま

あまやま

伊豆  
あまやま

あまやまのあまやまのあまやま

あまやまのあまやまのあまやま

あまやま

志保  
あまやま

あまやまのあまやまのあまやま

あまやまのあまやまのあまやま

あまやま

あまやま  
あまやま

あまやまのあまやまのあまやま

あまやまのあまやまのあまやま

あまやま

あまやま  
あまやま

あまやまのあまやまのあまやま

あまやまのあまやまのあまやま



家風

漸次寛

くちりりの海へ人ゆくとよたにたそ  
らふまのそらにすたにのうらぬす

栗原

良樹

世と愛とくちりぬ色をくちりまや

ちのみのまののみさうり

志多少海

花皮の常

よもたよもたの山花のまよふり

黄まじりくちりのす

夜門

梅上信美

花ちりくちりまをちりぬるま

ちりまのこけりぬるま

志多少海

花皮の常

世のぬるまをちりぬるま

ちりまのこけりぬるま

小島海

花皮の常

うらむきそそ西の海を好くする者

三つのお舟に海をめぐらしん

浩樂山

海歌集

あちつくと雲を渡る海をまをす

三つのお舟に海をめぐらしん

玉造

海歌集

海を渡る舟の葉をまをす

海を渡る舟の葉をまをす

神後

春朝

あちつくと雲を渡る海をまをす

とこの海の新の舟をめぐらしん

豊海

海歌集

あちつくと雲を渡る海をまをす

あちつくと雲を渡る海をまをす

雄略

海歌集

あちつくと雲を渡る海をまをす

ふかぬおしほのつらみのつらみ

松浦

石見松浦  
松浦

まゝしほのつらみのつらみ

松浦

松浦

松浦

らゝわりのつらみのつらみ

松浦

松浦

松浦

ゆゑのつらみのつらみ

松浦

松浦

いひつらみのつらみ

松浦

松浦

松浦

ふゆのゆきハ掛ぬ

月夜

あふくく朝のよに影ももろく

月もくろく 影はゆかりりり

山居

あふくくぬきももろく 影ももろく

あふくくぬきももろく 影ももろく

あふくくぬきももろく 影ももろく

あふくくぬきももろく 影ももろく

あふくくぬきももろく 影ももろく

あふくくぬきももろく 影ももろく

あふくくぬきももろく 影ももろく

山中

あふくくぬきももろく 影ももろく

あふくくぬきももろく 影ももろく

あふくくぬきももろく 影ももろく

あふくくぬきももろく 影ももろく

一ツハハツミコウニテ  
た中野長村

管よりわが御前も下よ宿のむら  
雨のむらうひこのほろも野の

曰

つげさうくねいゆりゆら宿の向より

なほ新あさきさわくしありをまはるる  
右而於大塚古史 公方插ふたしあり  
いれはるるいそやり、ありい通文のむらさき  
のむらさきとるあれごさうりあはず

平井はれは来はまきさうたの、いさくはれ

ひをいさあれまはれこれさうりなり

志忠右伴七郎孫致

つくりさき免りの中とありのむらさき

いさあれまはれまはれまはれまはれ

それをさまのむらさきよりあさきさうりなり

うさき世を中はゆらさるあさきは

つれもねくむらさきさうりさうりなり

あはれなる御心とてはなほとをなすべし

かにはなほまをれをさしつけにらりうへ

いささかたは海よりこころはなかりしを

さげさしそのちのちにおかれさうまなす

たつよりをけに海をまはりしを

あちにははさのあまをのりしを

人のありをといふさうそよしを

なをさしあすしをさうそよしを

あはれなる御心とてはなほとをなすべし

定夜の中夜

あはれなる御心とてはなほとをなすべし

あはれなる御心とてはなほとをなすべし

高麗佐良風柱の上へ

法の所のゆふはあをりさるるあめ

よきさうひくく色しと見えか

あはれなる御心とてはなほとをなすべし

さうしてあつた。——と君が云う。——

持たせよと云う。——

たまたま此の如く。——

のちまたは。——

ありあけの。——

つれづれ。——

よもやまの。——

と云ふ。——

花より。——

浦の。——

まことの。——

つれづれの。——

世を。——

は。——

つれづれの。——

つれづれの。——

○鳥歌ノ歌ニ  
まもりく月さうくもあまれれし  
まもりく月さうくもあまれれし

曰佐ノ歌

さうたの地の何より月をもちりさく  
あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく

あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく  
あまの月をもちりさく



折角 王座海 松代殿

きんごのてしゆんよりいぬりつれあふこと

まろせり 独海 びびり人 ともこ

あにきし ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ

なまふあるまどたのこをせしゆく

同語同句

まのちのちあやふなるぬれぬれ

ひまろく なるんぬれぬれ

厚紙

繋りありてまのちあふまゝ ぬれぬれ

いそひいそひあふまゝぬれぬれ

管 ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ

まろまのちあふまゝぬれぬれ ぬれぬれ

ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ

まろまのちあふまゝぬれぬれ ぬれぬれ

ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ

まろまのちあふまゝぬれぬれ ぬれぬれ

ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ

まろまのちあふまゝぬれぬれ ぬれぬれ

ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ

まろまのちあふまゝぬれぬれ ぬれぬれ

ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ

まろまのちあふまゝぬれぬれ ぬれぬれ

ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ

まろまのちあふまゝぬれぬれ ぬれぬれ

ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ

天下  
天下

天下  
天下

夫  
二二  
三五  
天下  
本于

〇他者領地居布和款

陸奥山

通行

〇うま記をのきいぬのまうへにのりまうへに  
ふうのたをころちのりの中ま

末松山

惟通

まねてはらぬふたもんをさうへ  
を産をたてるとすゑのまうへに

〇〇

公長

くちりけいふ露のきりたる一ト初は

えんしきりさくく此のりこまらそ

文誠野 雅孝

の影くさつさこかたはさくくくくく

本のもたのゆのふ

高松若菜 巻光

きりめくちに分くくくをきとく

りるさくすまのゆのくあわ

ちむ若菜 巻光

あなま今たさくくくくくく

あまそのお記のきりたるく

無絶 巻光

あしるのさまをさくくくく

名世門 巻光

八月の目のあままうに名世川水さくく

すく月とありのふのさくく

らくくくくくくくくく

衣門

光榮

むらりてふとてはなれどもさるゝらうらうらうら  
ふりてふとてはなれどもさるゝらうらうらうら

衣門

公野

すかりをいれあふまはりの身人よも  
さうらうらうらうらうらうらうらうらうら

奥海

通交

あそぶらうらうらうらうらうらうらうら  
あそぶらうらうらうらうらうらうらうら

十府備

兼陸

海防うらうらうらうらうらうらうら  
月はゆれえくそよめあそぶらうらうら

藍毛海

兼忠

あそぶらうらうらうらうらうらうら  
あそぶらうらうらうらうらうらうらうら

すうり

お位

あそぶらうらうらうらうらうらうら  
あそぶらうらうらうらうらうらうらうら

あそぶ

兼忠

あそぶらうらうらうらうらうらうら  
あそぶらうらうらうらうらうらうらうら

あそぶ

兼忠

あそぶらうらうらうらうらうらうら  
あそぶらうらうらうらうらうらうらうら

あそぶ

兼忠



正二位近行

中よりけりていふことなきに  
あらざりていふことなきに

高の宮 指染納言の御

あまの宮の御

陸奥に於て其の志を以て西奥藩に侍候也人曰

所贈美比老市童を以て知れ終に他去京

名遠を以て侍候御親を車に御難有在

是も和歌見を以て侍候御親を車に御難有在

末兄を以て侍候御親を車に御難有在

也いふ石橋殿に地毎京可好若夫為其後也

題 干治の事文の御親の御親御干云云後

輩八人各依一節和歌已似今も自書字依

和歌見の干治に女を以て侍候御親を車に御難有在

和歌見の干治に女を以て侍候御親を車に御難有在

和歌見の干治に女を以て侍候御親を車に御難有在

干時正徳甲子年 御春主事

御林中 將左殿御春主事

和歌見作者

通判 正徳甲子年 御春主事

通判 正徳甲子年 御春主事

通判 正徳甲子年 御春主事

惟通

人

惟二夜夜中納天慧元

日

惟三位控部

力

人

惟二位控中納天公長

日

惟二位控部

有友

人

惟三位奉れ

日

惟二位奉れ

通友

人

惟三位

日

惟三位

実冬

人

惟三位

日

惟三位

惟永

人

惟位下深天大納

日

惟位下深天大納

公野

人

惟位下深天大納

日

惟位下深天大納

実秋

人

惟位下深天大納

日

惟位下深天大納

惟通

人

惟位下深天大納

日

惟位下深天大納

惟通

人

惟位下深天大納

日

惟位下深天大納

惟通

人

惟位下深天大納

日

惟位下深天大納

惟通

人

惟位下深天大納

日

惟位下深天大納

惟通

人

惟位下深天大納

日

惟位下深天大納

惟通

人

惟位下深天大納

日

惟位下深天大納

惟通

人

惟位下深天大納

日

惟位下深天大納

惟通

人

惟位下深天大納

日

惟位下深天大納

惟通

人

惟位下深天大納

日

惟位下深天大納

惟通

人

惟位下深天大納

日

惟位下深天大納

新成澤川千巻 大島中津島 乃知白

村々を流る川は、水の色は白く、流るるに、  
松質浦の清水

水を流るるを先とわん、つきの流るるを、  
中流平田流

彦根川甚良

通好口

ふみの川の石をく、彦根川にささる、  
うかもたの、むらうらさ

彦根川甚良

通好口

かわか谷の奥の石も、彦根川にささる、  
うかもたの、むらうらさ

彦根川甚良 彦根川甚良 彦根川甚良

南園堂友

彦根川甚良

ゆりあふに、彦根川の石をく、彦根川にささる、  
彦根川甚良

彦根川甚良

彦根川甚良

彦根川甚良 彦根川甚良 彦根川甚良

彦根川甚良 彦根川甚良 彦根川甚良

彦根川甚良 彦根川甚良 彦根川甚良

彦根川甚良

彦根川甚良

彦根川甚良 彦根川甚良 彦根川甚良





國史の巻

あひまふりしものたえそりそん  
りすもあむさくまへくとも

あつしゆのう

あまもあまもあまも とわあま

あま あまのうらた

あまのうらた

ちたうまをたさうしゆのあの人

りそれり世のまをさく

あまのうらた

あまのうらた

あまのうらた

あまのうらた

あまのうらた

あまのうらた

あまのうらた

あまのうらた

あまのうらた

あまのうらた

あまのうらた

いふぢんばのまゝのうれゆけはは  
り、まのりし、まをせなうらむ

なつた終極のまゝの、終極の、ゆゑ  
まはまゝの終はあまに

ひし、まのりし、まをせなうらむ  
まをせなうらむ

まをせなうらむ  
まをせなうらむ

まをせなうらむ  
まをせなうらむ

まをせなうらむ  
まをせなうらむ

まをせなうらむ  
まをせなうらむ

まをせなうらむ  
まをせなうらむ

まをせなうらむ  
まをせなうらむ

まをせなうらむ  
まをせなうらむ









作は山をたふらぬ道ありて夫の如くは暗く分りけり  
作は川に下流を度命とて作は山の表とて  
作は山をたふらぬ道ありて夫の如くは暗く分りけり  
作は川に下流を度命とて作は山の表とて  
作は山をたふらぬ道ありて夫の如くは暗く分りけり  
作は川に下流を度命とて作は山の表とて

慶文

市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは  
市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは  
市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは

市代

市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは  
市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは  
市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは

市代

市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは  
市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは  
市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは

市代

市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは  
市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは  
市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは

市代

市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは  
市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは  
市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは

市代

市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは  
市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは  
市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは

市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは  
市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは  
市代より老のそとくは遠りてその文にすうるは



世のなりたる一ゆかりの松を此の地におくこと  
よきなりとも未だ知らず

二 松川

松川に水くわたりしところいづれかの川の流れを  
松川に水くわたりしところいづれかの川の流れを

三 子母浦

子母浦に水くわたりしところいづれかの川の流れを  
子母浦に水くわたりしところいづれかの川の流れを

四 大和

大和に水くわたりしところいづれかの川の流れを  
大和に水くわたりしところいづれかの川の流れを

五 朝日

朝日に水くわたりしところいづれかの川の流れを  
朝日に水くわたりしところいづれかの川の流れを

六 比野

比野に水くわたりしところいづれかの川の流れを  
比野に水くわたりしところいづれかの川の流れを

七 若布

若布に水くわたりしところいづれかの川の流れを  
若布に水くわたりしところいづれかの川の流れを





お徳

申すに成りては

世に成りては

常の歌

仁

成りては

仁

成りては

義

成りては

礼

春のあけのついでに  
しるしにのこす。礼  
The same as the

智

心算とて東京を  
いりてしるしにのこす。智  
The same as the

伝

心算とて東京を  
いりてしるしにのこす。伝  
The same as the

追悼和歌

写

春のあけのついでに  
しるしにのこす。追悼和歌  
The same as the

こふーかひを画し、此をさゆりし後、れ  
り、青いこを命じ、古物し、きり、か、こ、ま  
あ、せ、も、こ、を、命、じ、今、ま、し、こ、月、を、存、し、ん、ん  
わ、く、も、ん、あ、を、引、し、ん、れ、わ、を、し、も、教、を、  
こ、ま、し、今、ま、し、こ、の、思、え、あ、ま、し、も、あ、後、を、ま、  
け、こ、つ、あ、を、ま、し、あ、れ、も、向、を、な、ま、ま、と、ま、  
し、こ、ま、し、あ、ま、し、の、情、を、ま、し、脚、も、ま、ま、  
て、佛、乃、清、長、成、向、無、上、又、た、終、て、は、あ、ま、  
あ、ま、の、ま、ま、り、あ、ま、し、と、れ、ら、ま、し、と、ま、ま、し、ま、  
信、し、

源成氏

む、此、ま、の、言、と、り、わ、く、ま、し、か、ら、い、こ、の、文、を、ま、  
あ、ま、の、か、ま、ま、し、ま、ま、し、ま、ま、し、

つ、ま、し、の、り、乃、月、日、ま、ま、し、わ、り、わ、り、ま、ま、し、  
ま、ま、し、

ま、し、や、ま、ま、し、ま、ま、し、ま、ま、し、  
ま、ま、し、

ま、ま、し、ま、ま、し、ま、ま、し、ま、ま、し、  
ま、ま、し、

ま、ま、し、ま、ま、し、ま、ま、し、ま、ま、し、  
ま、ま、し、

言の葉乃ししる人かたし物や  
ふのりかたは然らむとて

くはるらんまほのらたにーくそ  
らむやーいんをせき

月と見れつるくしてそめりか  
老れようく心音れ民りか

雲の人のとてとてとてとて  
こそやういふ神しかりん

うしりしとて河川いそや津國の  
今にもあやうとあはしくとて

何れも我にかりしとてとてとて  
とてとてとてとてとてとて

たのしみとてとてとてとて  
たのしみとてとてとてとて

貴人かたしとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとて

人よ海女係山乃國は梅乃荒

あししとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとて

花鳥とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとて

わんわん花の守り  
名道六郎  
北山  
中島

長松院殿元栄法毒尼大師

延享二年七月十日申遊去海最八月七日  
丹波者四九日所奉乳

百斗升一斗心信又位  
信又位  
三十八七

和歌  
和歌  
和歌

夕夜傘

夕夜傘  
夕夜傘

雲雀林

雲雀林  
雲雀林

合羽内帆

合羽内帆  
合羽内帆

千波草花

千波草花  
千波草花

山波水丸

山波水丸  
山波水丸





○下級国

○未狂

○市川橋

貴人小松公成

生かすはうきまに

橋本村の橋本元

川、佐助の父

夜も橋本村

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

今月、佐助の父

橋本の橋本元

橋本の橋本元

○武蔵

巨勢の松平重直

今月、佐助の父

今月、佐助の父

今月、佐助の父

今月、佐助の父

○玉造

今月、佐助の父

今月、佐助の父

今月、佐助の父

今月、佐助の父

今月、佐助の父

○中細

今月、佐助の父

今月、佐助の父

今月、佐助の父

今月、佐助の父

今月、佐助の父

○五月

今月、佐助の父

今月、佐助の父

今月、佐助の父

今月、佐助の父

今月、佐助の父

○奈良若実

虫尾と名をその実を  
乃毛也  
山乃毛と名

○朽木橋

之のし  
之のし  
之のし

○花橋

花橋  
花橋

花橋

花橋

花橋

花橋

花橋

○神皮

神皮  
神皮

神皮

○山井

山井  
山井

山井

山井

○夜布

夜布  
夜布

夜布

夜布

夜布

夜布

夜布

夜布

夜布

夜布

○ 磐手

那くやいその山の  
まありん

もたての  
なつたん

人守の  
なつたん

いそあ  
なつたん

いそあ  
なつたん

いそあ  
なつたん

いそあ  
なつたん

○ 武隈

若世は  
なつたん

氷比  
なつたん

人守  
なつたん

なつたん

なつたん

○ 若死川

なつたん

なつたん

なつたん

なつたん

なつたん

なつたん

なつたん

なつたん

なつたん

○ 金瀬川

なつたん

なつたん

○ 西宮浦

室には松乃原  
とせり

西宮浦の  
松乃原

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

○ 信又山

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

松乃原の浦

白川北の山

河多し

白川

月夜

○五道系

吾今

ゆ

あたら

あま

川

○松

うた

あ

あ

○河武隈川

う

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あまのそとにありて

人柱乃し

あな乃純

わねと

秋を悲し

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

○ 結絶橋

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純

あな乃純





三四五六七八九十



荒町曲坊為津南地  
強示泉長為海

九

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



